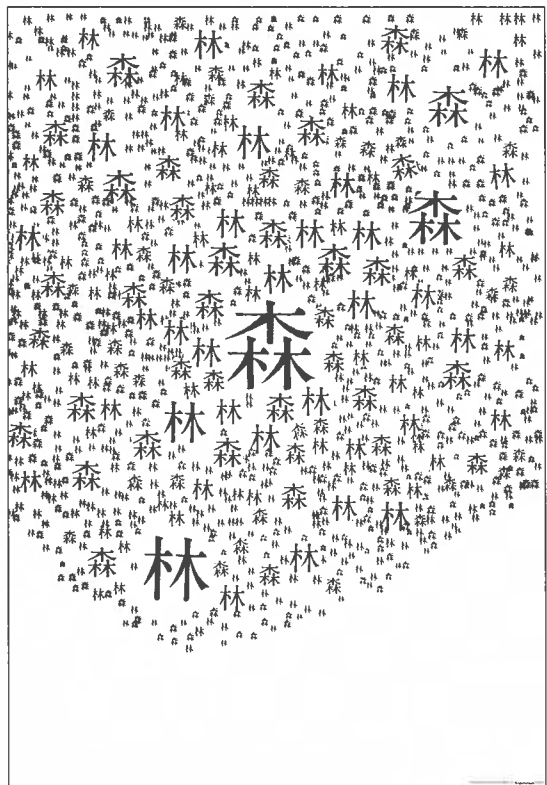


1

中学生の麻衣子さんのクラスでは、国語の授業で、「最近心に残ったこと」をテーマとした一分間スピーチに取り組んでおり、麻衣子さんは、次の文章のようなスピーチをした。これを読んで、①～③に答えなさい。



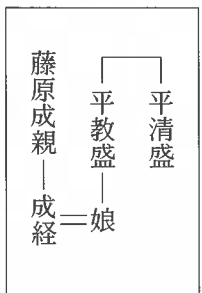
(山城隆一「森・林」)

このポスターを見てください。デザイナーの山城隆一さんが手がけたものです。白い背景に、いろいろな大きさの林と森という漢字がたくさん並んでいます。私は、将来デザイナーになりたいと思っています。先日このポスターに出会ったことは、その思いを新たに作る契機になりました。

この作品はさまざまに解釈できると思いますが、私は、それほど意味の変わらない二つの漢字を使っていることが気になりました。そこで漢和辞典を引いてみると、林のもととの意味は木が群生して

2

中学生の純さんは、国語の授業で、『平家物語』の理解を深めるため、ある場面を学習した。次の文章はその授業で用いられたもので、I～IIIはそれぞれ『平家物語』の原文と現代語訳である。これを読んで、①～④に答えなさい。



藤原成親は、謀反の罪で平清盛に捕らえられ、子の成経の身にも危険が迫っていた。成経を娘婿にもつ平教盛は兄の清盛に成経の助命を願うが、清盛は頑として受け入れない。それでもあきらめず必死に懇願した結果、教盛はようやく成経の身柄を預かる許しを得た。教盛は、

I 「あはれ、人の子をば持つまじりけるものかな。我が子の縁にむすぼほれざらむには、是ほど心をばくだかじものを。」  
 (ああ、子など持たなければよかったものだな。我が子の夫という縁にしばられなかったなら、これほど心配することはないだろうに。)

とこぼした。

教盛から願いが聞き入れられたことを告げられた成経は、「父成親の命はどうなったか。」とたずねた。教盛が「そこまでは考えていなかった。」と言うと、成経は涙を流しながら、

II 「命の惜しう候ふも、父を今一度見はよと思ふためなり。大納言がきられ候はんにおいては、成経とてもかひなき命をいきて、何にかはし候ふべき。」  
 (命が惜しゅうございませすもの、父にもう一度会いたいと思うためです。大納言が斬られるというのでは、成経も生きがいのない命を生きて、何になりましょう。)

III 「子ならざらむ者は、誰かただ今我が身の上をさしおいて、是ほどまでは悦ぶべき。まことの契は親子のなかにぞありける。子をば人の持つべかりけるものかな。」  
 (子でなければ、誰が現在の自分の身の上を差し置いて、これほどまで喜ぶことがあるか。本当の縁というものは親子の中にこそあったのだ。子は持つべきものだな。)

と思ひ直したのであった。

(注) 謀反——国や主君に背くこと。 大納言——藤原成親のこと。

いる場所、森は場所というよりたくさんの木が茂っている様子を表すとありました。確かに、かなりの本数の木でも密林と言うとか、雑木林とは言っても雑木森とは言わないとか、意味の違いで使い分けているようです。そんなことを考えつつこのポスターを見ると、一本一本の木の表情が見えてくるように感じました。

① 麻衣子さんがスピーチの中でことばにして述べたこととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。  
 ア 森林を保全する重要性 イ ポスターを通じた気づき  
 ウ 漢和辞典利用のすすめ エ 目指している人物の逸話

② 麻衣子さんのスピーチの特徴について説明したものととして適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。  
 ア スピーチの内容に関わる具体物を提示しながら話している。  
 イ 調べてわかった情報に加えて例を挙げながら話している。  
 ウ 聞き手の関心を高めるような質問を入れながら話している。  
 エ 話題と関わる自分自身のことにも触れながら話している。

③ 麻衣子さんはスピーチの後、級友から、……の部分は「きつかけ」と言った方が聞き取りやすいという内容の助言を受けた。この助言の根拠となる、話し言葉の特徴について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、漢字四字で書きなさい。  
 「契機」のように、「景気」や「計器」といった読みが同じで意味の異なる□□語がある熟語は、音声だけでは判別しにくい。

① 「あはれ」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

② 「命の惜しう候ふ」とあるが、成経がこのように感じた理由を述べたことばを、文章中のIIの現代語訳の部分から十五字で抜き出して書きなさい。

③ 純さんは、文章中のIとIIIから読み取れる教盛の心情の変化を、次のような表にまとめた。この表の□X、□Zに入れるのに適当なことばを、文章中の現代語訳の部分からそれぞれ十字で抜き出して書きなさい。また、□Yに入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

	心情が表れたことば	心情についての説明
I	人の子をば持つまじりけるものかな	縁にしばられて□Xがあるのなら、子など持たなければよかったと考えている。
←	成経が□Yという気持ちを訴えるIIの言葉や、その前後の我が身を差し置いて父の身を案じる態度に触れる。	
III	子をば人の持つべかりけるものかな	親子の中に本当の縁を見だし、□Zと考え直した。

④ 次の文は、純さんがまとめた感想文の一部である。この文中の……の部分について、助動詞の使い方を推敲し、解答欄の書き出しに続けて、文の意味は変えないように書き改めなさい。  
 『平家物語』と言えば戦いという印象だったが、この場面には今に通じる人の思いが描かれていて、興味深く読まれた。

次の文章は、小学校六年生の「はるか」が、学級だよりの作成に取りかかる場面である。学級だよりのタイトルは「銀河」で、主に学校行事やクラスの様子について、級友が出席番号順に担当して書いていた。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

宇宙を愛し、毛利衛<sup>まもり</sup>氏の乗るスペースシャトル打ち上げを心待ちにしていた妹の「うみか」が、鉄棒の練習中に腕を骨折した。「はるか」は、宇宙飛行士を志す妹の夢に悪影響がないかと心配し、「ミーナ」と遊んでいて練習に付き合わなかった自分を責めた。そんな中、「はるか」に学級だよりの書く順番が回ってきた。

机の前で、私は深呼吸して、方眼紙に『銀河』の見出しと、最初の一行を書き始める。

『現在宇宙に行ってるスペースシャトル「エンデバー」は、「努力」という意味です。』

学校に関係ないことを書くのは、浮く人間の仲間入りかもしれないけど、私たちには教室の「ここ」がすべてじゃなくてもいいんじゃないだろうか。教室の机の前に座つても、それと並行して気持ちももっと遠い宇宙を向いていることだってある。

ただ文章を書いているだけなのに、途中、何度も息が切れた。自分ですごく恥ずかしいことをしようとしているんじゃないか、あるいは、真面目な子に見えることをしてるんじゃないか、それをみんなに見せようとしてるんじゃないかと考えたら、不安がおなかの底から喉までを、わっと満たす。

でも、私は、これをうみかに読んで欲しい。あの子に教えてもらったことが、刷られてみんなに配られて、学校に認められるものになったんだってことを、見せたかった。

⑤ 清書用のペンを持ち直す。用意した修正液は、ほとんど使わずにスんだ。⑥ 一気に書き上げる。文章を書くのが楽しいなんて、初めて感じた。

完成した『銀河』の原稿を、両手で握<sup>つか</sup>む。見出しを見つめ直す。

『毛利衛さん、宇宙へ』

『無事にミッションを終えて帰ってきてくれることを祈っている。』と書いた最後の言葉は、書いた後から頬がかーっとなるくらいで、かっこつけすぎたかもしれないと反省したけど、結局、そのまま残した。

それはたぶん、うみかと、そして私の今の一番の気持ちだったから。

毛利さんが宇宙に行ってるうちに印刷して配って欲しい、と先生に申し出ると、湯上先生は原稿を読んだ後で「わかった。今日配るよ」とヤクソクしてくれた。

『今日の『銀河』は、はるかさんが書きました。配ります』

前から順に、『銀河』が配られてくる。見覚えのある自分の字が印刷にかけられているのを見ると、死にそうになるくらいドキドキした。

誰かにかかわられるかもしれない、と覚悟していたし——、もつと言えば、誰かが興味を持って読んでくれないだろうか、感想を言ってくれないだろうか、という方への期待もかなりしていた。

しかし、みんな『銀河』を、あっさりとは折ってしまいでしまう。私の肩から力が抜けていった。

帰りの会が終わわり、「一緒に帰ろう」とミーナが席までやってくる。

私の『銀河』に関するコメントもなかった。なんだ、このぐらいのことだったんだ、と思つたら、急にそれまで緊張っていた自分がバカみたいで、惨<sup>ひど</sup>めで、ほっとしたけど、それ以上に奥歯を噛みしめたいくらい、悔しかった。

帰ろうと教室を出かけた、その時だった。

「はるかちゃん」と、名前を呼ばれた。

振り返ると、学級委員の柵<sup>しがらみ</sup>さんだった。普段はほとんど話したことがない。

『今回の『銀河』、面白かった』

大きな眼鏡の向こうの黒目がちな目が、私を見ていた。私は咄<sup>はな</sup>嗟<sup>さ</sup>には答えられず、目を見開いて彼女を見つめ返す。柵さんが笑った。

「これまでで、最高の記事だよ。毛利さんで一号作っちゃうなんてすごい」

「そう、かな」

答えながら、頬が熱くなっていく。「ありがとう」と言葉が出るまで長く時間がかかった。身体の真ん中に柔らかな光が灯<sup>とも</sup>ったように、さつきまでの嫌な気持ちが消えていく。優しい気持ちが満ちていく。

それは、うみかと見上げた夜空の暖かさどこか似た気持ちだった。記事だけじゃなくて、うみかが褒められたような誇らしい気持ち。口元が勝手にゆるんで、笑顔になってしまう。

帰った私が差し出した『銀河』を、うみかはじつと覗<sup>のぞ</sup>きこんで、読んでいた。クラスメートに見せる時より、ずっと、緊張した。

うみかから感情たつぷりの褒め言葉や感激の涙を期待したわけじゃなかったけど、読み終えたうみかはいつものような無表情だった。

「これ、私のため？」

⑥ 明け透<sup>あけす</sup>けな言い方で尋ねてきた。

「うん」

「ありがとう」

なんでもっと感動的に反応してくれないんだらうってイライラしたけど、仕方ない、とあきらめる。これがうちの妹で、うみかはこういう子なんだから。

翌日学校に行ったら、湯上先生から職員室に呼ばれた。日直でもないし、呼び出しの理由に心当たりがなくて、おっかなびっくり先生の机まで行くと、方眼紙を渡された。

「また、書いてみないか」

息が止まった。先生が続ける。

「もうすぐ毛利さんが宇宙から帰ってくる。帰ってきたら、そのことでまた一号、書いてみないか」

⑤ 方眼紙を持つ指に、力が入らなかつた。——嬉<sup>うれ</sup>しくて。

この時も、うみかの顔が思い浮かんだ。あんなふうに感情の起伏の薄い妹だけど、それでも、私が真つ先に嬉しい知らせを伝えたいのは、あの子だった。

(出典 辻村深月「1992年の秋空」)

① ———の部分⑥、④を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 『銀河』の見出しとあるが、「はるか」が完成させた学級だよりの「見出し」のことばを文章中から抜き出して書きなさい。

③ 「一気に書き上げる」とあるが、原稿を書く「はるか」の心情について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 学校に関係ないことを学級だよりに書く不安を抱きつつも、宇宙好きの妹に読んでもらいたい思いに突き動かされている。

イ 学級だよりにスペースシャトルはそぐわないと認めつつも、常に冷静な妹に一泡吹かせるため集中して作業を進めている。

ウ 教室で宇宙のことばかり考えてしまう自分を反省しつつも、学級だよりに共感する人が現れる期待に胸を高鳴らせている。

エ 宇宙に興味があるふりをすることに自責の念を感じつつも、学級だよりに利用して妹を励ますことができている。

④ 「このぐらいのことだった」とあるが、「このぐらい」が表す内容について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア うわべの心配とはうらはらに自分の記事に自信を持っていたが、級友のみんなは全く読もうとしてくれなかつた。

イ 自分の書いた学級だよりにどんな反応があるのかとドキドキしていたが、学級委員の柵さんしか興味を示さなかつた。

ウ 場違いな宇宙の記事では理解されないと半ばあきらめていたが、級友の誰もがあつさりとして受け入れてくれた。

エ からかわれる心配と興味を示してくれる期待とが心の中に渦巻いていたが、級友のみんなもミーナも無関心だった。

⑤ 「嫌な……満ちていく」とあるが、「はるか」の心情がこのように変化したきっかけについて説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、文章中から五字で抜き出して書きなさい。

学級委員の柵さんから、自分の書いた『銀河』を□□だと評価してもらえたこと。

⑥ 「方眼紙を……入らなかつた」とあるが、ここで「はるか」が感じていたことについて説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、文章中のことばを使って五十文字以内で書きなさい。

感動的な反応は期待できないにせよ、□□と感じている。



